

宮城県に望むこと
(自由回答抜粋)

宮城県に望むこと【結婚について】／(郵送調査:自由回答抜粋)

Q51.最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

配偶者あり

- “婚活”と言うとプライドがある人は一歩出にくくなったりするので、出会いとしてはパーティーや同窓会の補助などがあると出会える機会ともなるのでは？これを親や職場で出されたら、逆に、行きたくなくなったので。(女性40代:子ども2人)
- 結婚したい男性、助成の交流機会、場所を増やしてほしい。県外から県内へ来た人がステキな県だと思えるような県であってほしい。一定の額で結婚式費用の補助(挙げたくても予算なく挙げられない人もいると思うので。)(女性30代:子ども2人)
- 「男は仕事、女は家庭」のすりこみがないうちに、「男も女も仕事をもち、家事、育児を平等に行う」という意識をもって欲しい。(女性30代:子ども2人)
- 企業等の社会の基盤がしっかりしていないと若者も宮城県に定住しないだろうし、より良い賃金、居住を求めて県外へと出ていく人も多いのではないかと考える。よって行政には出会いの場を設けるよりも政治の面、経済において企業を支援してほしいと思う。(女性40代:子ども2人)
- 結婚、出産、子育てすべてに共通することですが、震災以降復興に向けての仕事が多く、特に沿岸部を担当する、公務員、建設業など、家族や恋人と過ごす時間がかなり少なくなっていると思われ、またその仕事の中心を担っているのが、若い世代であり婚活、子育てへの参加に十分時間がとれていないのではないのでしょうか。被災地以外でもワークライフバランスが唱えられていますが、被災地においては官が主体となり率先してこれを進めていき、結婚、子育てしやすい環境を進めていくことが必要と思われれます。(男性40代:子ども2人)
- 現在、契約社員や派遣社員など雇用の期間が定められた働き方をしている方が多くいます。私もつい最近までそうでした。主人や身近な人にも多いです。2・3ヵ月毎の契約更新のくり返しでした。若いうちは良いかもしれませんが、雇用が安定していないということは、結婚はもちろんですが、出産、子育て・・・に大きな不安を抱き、足止めになっている事は間違いないと思います。(女性30代:子ども2人)
- 若者が大学等の進学で地元を離れてしまい、そのまま都会(他県)で結婚する事はよくあること。このままでは若者が少なくなり、地元に残った若者は出会いが少なくなる。若者が進学しても卒業後、地元に戻り働きたいと思うような魅力ある市、県作りをしておかないといけないと思う。市・県の良いところを心に刻み込むようなアピールをして欲しい。(男性30代:子ども3人以上)

宮城県に望むこと【結婚について】／(郵送調査:自由回答抜粋)

Q51.最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

配偶者なし

- “婚活”推奨は、その後のサポート含め長期的な視野で取り組まないとただ離婚率を上げるだけでは、と思います。結婚がゴールにならない支援としてほしい。(ただそれを積極的に利用する人が多いか?と問われれば正直多くないと思います。やるならもっと気軽に、カジュアルに)(女性20代:未婚、子ども有無不明)
- リーマンショック以降不安定な雇用、経済が続いているので、少しでも若い人が結婚できるように雇用の安定を図り、住居手当の補助などを手掛けてほしい。(男性20代:未婚、子どもなし)
- 宮城県内で結婚し、住み続けるとこんなメリットがある、という取り組みをする。新居建築に当たり補助金を出す。郊外で車が必要な地域ならば、車にかかわる税負担を軽くする。夫婦でそれぞれ車所有なら2台分。銀婚式や金婚式を無事に迎えられたご夫婦は、行政支援や介護サービスを安く利用できるようにする。(女性30代:未婚、子どもなし)
- 現在、パートで働いていますが、生活が苦しく、フルタイムで働ける仕事を探しています。非正規雇用の仕事しかないので、雇用期間も短期間で、何度も転職活動を行わなければならないので、雇用が安定せず、忙しくて、将来も不安で結婚について考える余裕がありません。安定した正規雇用を望んでいます。(女性30代:未婚、子どもなし)
- 婚活パーティー等の情報がまったく耳に入っていない。ライフプランを組み立てるための情報提供をしてほしい。未婚の労働者の労働時間が多く、疲労しきっている労働者が多い。パートタイムやフレックス制をもっとメジャーにし、自由な行動時間を増やしては?(女性20代:未婚、子どもなし)
- 若者の結婚離れが進んでいる現代において、結婚しない場合、老後がどのようになるのかななどを考えていない(イメージ出来ていない)若者も多いと思う。将来設計という観点から人生を見つめ直させる必要があると思う。(男性20代:未婚、子どもなし)
- 将来的に安定した雇用の創出。最近の若者は収入の安定性と未来性がない雇用に就いているために結婚に対して楽観的になれないのだと思う。(男性20代:未婚、子どもなし)
- 離婚が増える中、幸せな結婚生活って何だろう、って思う人もいるし、周りにせかされて何となく結婚を選ばされる人もいるのかな。と思うので、合コンとか出逢いの場だけじゃなく“夫婦生活に大事な事”など上手く行ってる方の講演会などがあると良いなと思います。(女性20代:未婚、子どもなし)

宮城県に望むこと【出産について】／(郵送調査:自由回答抜粋)

Q51.最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

配偶者あり

- 市町村によって出産した人数でもらえる金額が違ったり、もらえない市町村もあるので補助等で統一してほしい。・医療機関によって出産費用がちがう為、例えば県で指定した医療機関で出産するとこのくらいの金額になる等公表してほしい。(女性30代:子ども3人以上)
- 10代のころから、「誰でも子どもが産める訳ではない」と教えておいた方が良くと思う。自分の頃はそういう知識を得る機会がなく、女性の妊娠にかかわる病気などは全く知らなかった。若いうちから、産みたくても産めない事もあると知った上で、自分のライフプランを考え「産む」「産まない」をある程度選択できた方がいい。その知識があればさまざまな事情で「産めない」人に対する偏見もなくなると思うし、逆にマタハラもなくなると思う。「産む」ことも「産まない」ことも「産めない」ことも大変だから。(女性40代:子どもなし)
- 医療費の補助(お金がなくて定期検診が受けられないという事がないように)会社側の理解(出産するという事はとても大変なことなので。妊娠中にストレスで母体に影響のないよう職場側の配慮が必要)(女性30代:子ども2人)
- 結婚して子どもはたくさん欲しいけど、支払う税金や保育料が高すぎて今現在もダブルワークで一生懸命働いても生活はきつきつで、共働きなのにどうしてこんなに生活がやっとやっとなのか…と思うと2人目3人目を考えた時とても不安。子どもを生むほど出費がかさむのではなく、子どもが沢山いるからこそ支援を増やしてあげてほしい。(女性20代:子ども1人)
- 困ったときに頼りにできる。相談できる窓口の案内や、初めてのママへの情報提供をもれなくできる、してもらえる仕組みづくり。(女性30代:子どもなし)
- 産院が減っていて、里帰り出産をしたくてもできない。(白石にはお産ができる病院が全くない)子育て支援も大事だと思うが、産める所を増やすことも大事だと思う。育休中の手当が支給されるまでに4ヶ月位かかるため、経済的な面での不安が大きいので、改善や見直しを考えて欲しい。(女性30代:子ども1人)
- 産科医師の適正配置・国の制度上の問題もあるかと思いますが、産科医師数の地域格差があるので、宮城県内にも(県北)産科医師が配置できる制度の制定。個人医師開業への支援(女性40代:子ども2人)
- 出産するのは女性であるが、男女関係なく出産や育児に携る若い夫婦に、子育て現役世代ではない雇用主や職場同僚もより理解を示す環境になるよう、県ができる助けを期待したい。県庁、市役所などがまず、子育て世代の就業について理解ある職場になることからスタートしてほしい。(女性30代:子どもなし)
- 出産に関する助成がもっと多くなってほしい。ベビーベットやベビーバスなど一時しか利用しないものを無料又は低料金でレンタルできるようにしてほしい。子育てについての情報を出産前や出産時に知らせてほしい。(母親教室やベビーシッター、育児相談のできる場所、乳児の遊べる場所など)お父さん方にも出産・子育ての大変さを知らせて育児は夫婦2人でするものと広めてほしい(女性20代:子ども1人)
- 出産についての知識があまり無く、少し怖いという印象もある。夫も知識はあまり無く、女性の大変さもイマイチ分からないようなので、高校などの保健体育で、しっかり妊婦になってからのことを教えて欲しかったと思う。(女性20代:子どもなし)
- 出産費用の補助はこれ以上増やしても意味ないと思います。(補助が増えると病院も出産費用を値上げするため)だったら、そのあとの子育て～教育の時点で補助があった方がいいです。(女性30代:子ども2人)

宮城県に望むこと【出産について】／(郵送調査:自由回答抜粋)

Q51.最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

配偶者なし

- 婦人科だけでなく産科として子どもを産める病院を増やし、大きな病院や都心部のみにかたよらず地方など様々な場所で出産できるように整備してほしい。出産の費用を保険で払えるようにしてほしい(もしくは県で補助を出す)。(女性20代:未婚、子どもなし)
- 医療施設、産婦人科はもちろん、専門技術を持った医師がいる小児科や外科があり、妊娠中から出産、そして、出産後もずっと不安がない環境になればいいと思います。「病院」という事に関して言えば、待たずにスムーズに、そして親身になってくれる病院が身近にあると安心だと思います。(女性40代:離別・死別など、子ども2人)
- 子育てする人にも、しない人にも理解ある社会であってほしい。出生率UPという意には反しているかもしれませんが、多様な選択を許容する社会である方が先決では。(LGBTの問題などもあります)逆に、結婚・出産していないことで子育て組に嫌なことを言われたことも多々あります。会社もそういったものが多いことも、お互い、皆が皆それぞれの生活を理解できる教育が必要と思います。(女性20代:未婚)
- 私も女性の方が35歳以上を過ぎると妊娠する力が弱くなるという事をもっと若い頃から知りたかったです。出産費用など、自分の配偶者や女性の方には手厚い看護というかサービスをもっと提供してもらいたいです。経済的な問題とか、10年間位あまり、働かなかった期間がありました私も悪いですけど。(男性30代:未婚、子どもなし)
- 小中学校の義務教育段階でのライフプランの指導(男性20代:未婚、子どもなし)
- 少子化ということが問題化されているが、行政として、何故子どもを女性が産めないのかが分かっていない中で、沢山産んでほしいといわれても困る。年収が昔に比べて少なくなっていることに対して、出産や育児にあてられる金額は限られている。出産、育児に対する費用的な面での支援が必要だと思う。(女性10代:未婚、子どもなし)
- 被災地では、特に仕事が無く、生計を立てる事が難しく、出産や子育て以前に、結婚すら出来ません。少ない収入からの所得税や住民税、通勤にかかる交通費や社会保険などの支払いが厳しいです。経済的な負担を減らしてほしいです。(女性30代:未婚、子どもなし)

宮城県に望むこと【子育てについて】／(郵送調査:自由回答抜粋)

Q51.最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

配偶者あり

- 市町村によって支援内容がちがうのは仕方ありませんが、せめて乳幼児医療助成は中3までと県内で統一して欲しいです。核家族化になり、ママ一人が育児にかかりきり、精神的フォロー、悩み相談が出来ない女性が増えています。乳児検診だけではなく、若いママ達が参加しやすい育児サークルの設置、育児サポート(ベビーシッターetc.)の充実、パパの意識改革、周囲の協力体制の整備が必要と思います。以前あった「赤ちゃんの泣き声がうるさい」というクレマーの存在など、我々の世代でももっと育児に協力的にならねばと思いました。(女性40代:子ども3人以上)
- まず、何人でも安心して出産して育児が安心してできるような補助が欲しいです。2人目以降を産む時に上の子を預ける場所が無くて困ったり急用でも預けられる託児所が無かったり、周りにもっと預けられる場所が欲しいです。保育料の軽減もお願いしたいです。医療費の補助はとても助かっています。おむつ無料券などもあったら助かります。退職後のナースなどで運営される病児保育も保育所に併設されたら、もっと女性が働きやすくなると思います。子どもが小さいうちだけでなく小、中、高生まで継続した補助金をお願いしたいです。(女性30代:子ども3人以上)
- 核家族化が進んでいますので、お母さん達が相談できる場所が沢山あればいいなと思います。又、保育園等の施設が増えて、子どもを預けやすい環境づくりを願っています。又、行政には、子どもの定期検診(個別、集団)の受診状況を把握して頂き、子どもが健やかに育っているか、checkしてほしいと思います。手をかけてもらえないお子さんも多いように思います。(女性30代:子ども2人)
- 学童保育とは別に、学校から帰ってきて、外で遊べる広場や公園が無い。公園に行くにも車で15分~20分行かなくてはいけない。そうすると毎回連れていけないし、室内での遊びが多くなる。元気な体つくりの為に、子ども同士でふれ合いの場として、徒歩または自転車で行ける距離にそういう所があったらいいと思う。県内全体のいわゆる「田舎」地域にも目を向けて欲しい。(女性30代:子ども2人)
- 教育費が高額で子どもの望む進学を提供でかるか不安に思っています。地方行政では難しいかと思いますが、高齢化社会を支える子どもを増やし安心して生活できるよう他国のように、基本大学までの教育費を無償化しヘルパーの仕事など子どもたちのアルバイトとして提供、高齢者も若者も互助互助の関係など構築できたらいいと思います。(女性40代:子ども1人)
- 県市共に出産~中学生位までは補助という制度は充実してと思いますが、実際子育てをしてみて強く思ったのが、幼少期より補助して頂きたいのが中学~高校の時期だと思いました。昔から小さいときは手がかかり手がかからなくなるとお金がかかると言いますから。(女性40代:子ども3人以上)
- 公的な保育園、幼稚園をもっと多くした方が良い。ただし、子どもの人数は地域の特性(特に団地)があるので、柔軟に統廃合・移転ができるような仕組みがあると良いのではないかと思います。また、子どもが小学生、幼稚園の時期では、共働きが可能なように児童館も充実してほしい。(私の場合は子どもを児童館に入れてもらえなかったため、下の子の面倒を見るために上の子に大変な思いをさせてしまいました。子どもは二人とも同じように育てたかったが、できなくて残念です。)(男性40代:子ども2人)
- 職場の理解が高まるような取り組みをして欲しい。上司への意識改革のための研修を公開で実施して欲しい。部下の研修内容は上司は把握しているが、上司の研修内容は部下は知る機会が少ないので。制度が整っていても、当たり前に使えないのでは意味がない。「権利だからどうぞ」と言われて取得する有給や育休では肩身が狭い。結局、上司と言われる人たちの理解はまだまだ乏しいのが現状。(女性30代:子ども2人)

宮城県に望むこと【子育てについて】／(郵送調査:自由回答抜粋)

Q51.最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

配偶者なし

- 現代社会が著しく変化し、子どもたちのストレスに大人のサポートが追いついていない気がします。雇用者側の理解の向上を推進するべく、産休時にも企業側が人材不足で困らないような雇用促進(企業業務量と社員(パート等従業員も含む)の啓発活動を行政が行ない雇用主の意識改革をしてみてもどうでしょうか。育児ノイローゼ等に陥りやすい若い世代の核家族世帯に行政が積極的に育児に関する情報提供や毎日の育児から一時的にでも解放できるベビーシッター付の楽しめるイベント等を開催して息抜きの場を設けてあげる事が、その後の家庭環境や子ども達の学校での陰湿的な虐めの防止につながるのでは?(情緒の安定が万人に大事であると私は思います)(女性40代:未婚、子どもなし)
- やはり、子育てに対して不安に思っている方も多いと思うので、仕事と子育ての両立、経済的にやっていけるのか、また子育てをしながら、自分や夫婦だけの時間が取れないという点で不安とってしまうかと思えます。それから、将来の教育費に対する補助、住居費用の補助などの金銭面での補助、仕事面では、勤務先での産休、育児休業制度、育児短縮勤務制度、職場の理解、この点で改善出来れば、今後子どもを持ちたいと思う方も増えるのではと考えます。(女性30代:未婚、子どもなし)
- 宮城県は身内が近くに住んでいる場合が多いので、身内の協力も含めた子育て支援が必要ではないか。保育士の待遇改善も含め、子どもを安心して保育園にあずけることができるようにしてほしい。結婚、出産よりも、子育てをしながら仕事を続けることの難しさ(時間、体力的なもの)、お金の面が大変不安なので、ぜひ仕事をフルタイムでできればつづけながら安心して生活ができるよう企業に対してはたらきかけを積極的に行ってほしい。(女性30代:未婚、子どもなし)
- 子を授かり、子が独立するまでのタイムラインと出費の目安を知らせた上で子育て計画を考えてもらえるようにする。行政で手当て出来ること、出来ないことも明確に。子が生まれてから初めて知らされる現実にゲンナリしている親世代は多いのではないかと思うので。復職したいのに保育園入所できないとか。(女性30代:未婚、子どもなし)
- 保育所の数を増やし、そこで働く職員さんも確保してほしい。待機児童が増える一方では子どもを預けられないし、今の時代共働きが当たり前になってきているので生活も厳しくなる。又、小児科の病院も年々減ってきているので、そこも不安材料の一つでもある。小さいうちは病気など沢山するので小児科を少しでも増やせるように検討してほしい。(男性20代:未婚、子どもなし)